

タイトル	時間副詞の情意性 ーイマサラにおけるテンポラルな意味とモーダルな意味ー
著者名(所属)	馬莎 (北京日本学研究センター修士課程院生)
連絡先Eメール	17171004@bfsu.edu.cn
論文内容	<p>(背景および研究目的)</p> <p>現代日本語において、時間を表す表現の中には時間概念を表すがゆえに、共起する述語動詞のテンス・アスペクトと呼応関係をもっているものがある。これまでの研究においては、そのような時間表現は時間副詞と見なされ、その時間的意味・機能を中心に考察されてきている。しかし、時間副詞には時間的意味を持つと同時に、話し手の事態に対する捉え方を表すモーダルな意味を持つものも存在している。時間副詞に時間的意味とモーダルな意味を同時に持つものがどれくらいあるか、また具体的にどのようなモダリティー表現と呼応するか、どのようなニュアンスを伴うか、その中に時間的意味とモーダルな意味がどのように相関しているか。本研究では、それらの問題点について、先行研究の成果に踏み込んだ上で考察を行い、実例分析に基づき、個別の時間副詞の意味・機能を明らかにすることを目的とする。</p> <p>(検討方法等)</p> <p>まず、『現代副詞用法辞典 新装版』(飛田・浅田 2018)と『分類語彙表 増補改訂版-』の相の類—時間を参考にし、その両方に収録されたものを研究対象にする。その後、『現代日本語書き言葉均衡コーパス』を用い、例文を収集する。共起成分とモーダルな意味を持つ時間副詞との文法上、意味上の関わりを考察する。</p> <p>(結論)</p> <p>イマサラは<発話時を表す>というテンポラルな意味より<適切な時機を逸している>という否定的評価感情を表す>というモーダルな意味が主軸であるといえる。</p> <p>文法上の特徴といえば、イマサラには話し手の否定的評価感情があるため、否定形の述語とよく共起する。条件節に現れている場合、文末の述語は否定形をとっていないが、意味的にはマイナスである。疑問詞を含む質問文にイマサラが使われると、基本的な質問文からずれていく。質問文の形をとっていても、情報を求めるきもちが消え、<話し手の否定的評価のきもち><非難のきもち>が前面化している。更に、「今更何を」という省略の形だけでも、<話し手の否定的評価のきもち><非難のきもち>が察知できる。イマサラには形容動詞になって名詞を修飾する例文も確認できる。「今更なんですが」「今更ですが」などのように、質問する際或は他人に依頼する際に使われる配慮表現として使われる場合もある。</p> <p>参考文献:</p> <p>孫佳音(2010)『現代日本語の時間副詞に関する研究』北京：中国社会科学出版社 工藤真由美(2013)「モーダルな意味とテンポラルな意味」《日语学习与研究》3 p1-8 ルチラ パリハワダナ(2014)「副詞「そろそろ」による出来事成立時期の描写—時間性とモダリティーの交差—」『京都大学国際交流センター論攷』</p>